

タイトル『汐製菓会社の新作20

ガム2』

登場人物

- ・ 汐（しお）…30代、汐製菓会社社長。
常に斬新でユニークな発想を持ち、奇抜な商品開発を得意とする。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、人々に笑顔を届けることが生きがい。
- ・ 塩田（しおた）…30代、汐の秘書。真面目で几帳面、汐の突拍子もないアイデアにいつもハラハラしているが、内心ではお菓子が大好きで、そのために製菓会社に就職した。汐の奇抜なアイデアに困惑しつつも、密かに期待している。

第一幕…発端

（場面は、汐製菓会社の会議室。豪華な装飾と大量のお菓子が並ぶテーブル。汐はデスクに腰掛け、腕組みをして考え込んでいる。

塩田は書類を整理しながら、ちらちらと汐の方を気にしている。）

汐（考え込んで）「何か新しい、刺激的で、今までにないお菓子を作りたいんだが……。うーん、何か……。こう、ズバツとくるものはないかな……。」

塩田（慎重に）「社長、以前の『わさびガム』のようなものは、いかがでしょうか？ あれはかなりインパクトがありましたし……。」

汐（ふと顔を上げて）「そうだ！ 焼きビーフンだ！ 焼きビーフン味のガムだ！」

塩田（驚いて）「や、焼きビーフン味……。ですか？ ガムに……？」

汐（興奮して）「そうだ！ ビーフンはヘルシーだし、独特の食感がある。これをガムに取り入れれば、新しい食感のガムが生まれるはずだ！」

塩田（困惑して）「それは確かに斬新ですけど…ビーフンの味がガムに合うかどうかは…。」

汐（目を輝かせて）「いや、絶対に面白い！

試作をすぐに始めよう！」

（塩田は深いため息をつきつつ、汐の指示に従う。）

第2幕…試作開始

（場面は、汐製菓会社の製造部門。白衣を着た従業員たちが試作品を作っている。塩田はメモを取りながら、汐の指示を伝える。）

汐（熱心に）「まずは、ビーフンを細かく砕いて、ガムのベースに練り込むんだ。それから、焼き目の風味をどうやって出すかがポイントだな…。」

塩田（控えめに）「社長、味見をしていただけますか？ 試作品が完成しました。」

汐（嬉しそうに）「いいだろう、さっそく試食だ！」

（汐は一口噛んでみるが、すぐに顔をしかめる。）

汐「うーん…これは…ビーフンの風味が強すぎるな…。もっとガムとしての甘みと、バランスを取らなきゃいけない。」

塩田（不安げに）「もしかして…これは難しいのでは…？」

汐（真剣な表情で）「いや、まだ改良の余地はある！ もっと練り込んで、香ばしさを追加しよう。それに、少しピリツとした刺激を加えるんだ！」

塩田（呆れつつも諦めない様子で）「わかりました、すぐに対応します。」

（製造チームは慌ただしく動き回り、新しい試作品を作り始める。）

第3幕：試食会

（場面は、会社内の試食ルーム。試作品が並べられ、社員たちが集まっている。汐と塩田が前に立ち、新しいガムの発表を行う。）

汐（自信満々で）「皆さん、これが我が汐製菓の新作、『焼きビーフンガム』だ！ さあ、皆さんもぜひお試しを！」

（社員たちは一口食べるが、表情が微妙になる。）

社員A「これは…何とも言えない…。」

社員B「口の中でビーフンが踊ってる感じがしますね…。」

社員の「確かに新しいけど、これを日常的に噛みたいかという…」

（社員たちが困惑する中、塩田は恐る恐る汐に目を向ける。）

塩田（小声で）「社長…これはちょっと厳しい
かもしれません…。」

汐（少し落ち込みながら）「うーん、そうか…
ちよつと斬新すぎたかな…。でも、諦めるわけ
にはいかない！ 次のアイデアだ！」

（汐は突然、顔を明るくし、新しい発想を思
いついたような表情をする。）

汐「次は『餃子味ガム』だ！ これなら、みん
なも大好きだろう！」

塩田（驚いて）「ぎ、餃子味ですか！？ それ
はさすがに…。」

汐「いや、きつとウケるさ！ 餃子のジューシー
さとニンニクの香りがガムに加われれば、最高の
組み合わせになる！」

塩田（困惑しながら）「やはり…止められない
んですね…。でも、もしかしたら成功するかも
…？」

第ㄗ幕：海外市場への挑戦

（場面は、汐製菓の国際展開を試みる場面。海外の食品展示会にて、汐と塩田が出展ブースに立っている。）

汐（元気に）「皆さん、これが新作の『焼きビーンファンガム』と『餃子ガム』です！ ぜひ試してみてくださいー！」

（外国人バイヤーたちは興味津々でガムを試食するが、表情が困惑する。）

バイヤーA（びっくりして）「ナンデスカ？ コノアジ？ タベタコトナイ…。」

バイヤーB（不思議そうに）「コレハ、チヨット…ウチノマーケットデウレルカナ…？」

バイヤーC（困惑して）「オイシイケド、ウチノヒトニアウカドウカ…。」

塩田（小声で汐に）「社長…やっぱりこれは…。」

汐（笑顔で）「いや、これが逆に新しい！一度食べたなら忘れられない味ってやつだ！」

第5幕…奇跡の逆転

（場面は、再び汐製菓会社のオフィス。汐はデスクに座り、塩田と話している。）

塩田「社長…試作品の結果は思わしくありませんでしたね…。でも、私たちは確かに新しい挑戦をしました。」

汐（真剣な表情で）「そうだな…でも、何か足りなかったんだ。もっと多くの人が楽しめるようなものを作らないと。」

（その時、電話が鳴る。塩田が受ける。）

塩田「汐製菓会社、塩田です。…え！？はい、すぐにお伝えします！」

（塩田が電話を切ると、驚いた表情で汐を見つめる。）

塩田「社長！　なんと、あの焼きビーフンガムが、海外のYouTuberたちに話題になって、爆発的に人気が出ているんです！」

汐（驚きつつも笑顔で）「やったぞ！　やはり、面白いものを作れば結果がついてくるんだ！」

塩田（笑顔で）「これで汐製菓はさらに成長できますね。次はどんな商品を考えましょうか？」

汐（にやりと笑って）「次は『焼きそばパン味ガム』に挑戦だ！」

塩田（困惑しつつも笑顔で）「社長、本当に次から次へと……。でも、これが汐製菓の魅力ですね。」

汐「さあ、次の挑戦に進もう！世の中をもつと面白くするために！」

（舞台は暗転し、笑顔の汐と塩田の姿が浮かび上がる。）

幕引き

結末

汐製菓の奇抜な商品は当初は困惑されたが、予想外の形で大成功を収めた。汐の信念である「面白きことも無き世を面白く」の精神が、人々の心に響いたのだった。汐と塩田は新たな挑戦に向け、さらなるユニークなお菓子を作り出す決意を固めた。

エンディング曲が流れる中、クレジットが表示される。